

青馬神事

青馬神事は、1月7日に行われる新年のお祓いの儀式である。昔は、多くの神社が儀式のために白馬を飼っていたが、今では極めてまれになっている。住吉大社の神馬である白雪は、普段は別の厩舎にいたのだが、青馬神事の際には神社に連れてこられる。

この神事では、白雪が住吉大社の守護神が祀られている4つの本宮にそれぞれに連れてこられる。それから境内を一周する。この儀式は白馬が悪霊を追い払うという信仰に由来している。お正月に白雪を見た人は、その年の病気を防ぐことができるという言い伝えがある。

住吉大社は、その創始者である伝説的な3世紀の神功皇后の時代から白馬を飼っていたと言われている。伝説によると、神功皇后は朝鮮半島の王国への侵略を指揮した後、最初の馬を朝鮮半島から持ち帰ったと言われている。この神社の馬には数々の伝説や民間信仰があり、その中の1つには、白雪の飼料である大豆を3粒食べると歯ぎしりが治るというものがある。